

U.S. Indicators

発表日:2018年11月1日(木)

米国 18年10月ISM製造業景気指数

～ハリケーン、貿易戦争、ボトルネックの合わせ技で下振れ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

ISM製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
17/10	58.5	63.5	61.0	59.8	48.1	60.1	53.9	68.1	55.1	54.3
17/11	58.2	63.9	64.3	59.2	47.1	56.6	54.3	64.8	56.3	54.3
17/12	59.3	67.4	65.2	58.1	48.5	57.2	54.9	68.3	57.6	56.5
18/01	59.1	65.4	64.5	54.2	52.3	59.1	56.2	72.7	59.8	58.4
18/02	60.8	64.2	62.0	59.7	56.7	61.1	59.8	74.2	62.8	60.5
18/03	59.3	61.9	61.0	57.3	55.5	60.6	59.8	78.1	58.7	59.7
18/04	57.3	61.2	57.2	54.2	52.9	61.1	62.0	79.3	57.7	57.8
18/05	58.7	63.7	61.5	56.3	50.2	62.0	63.5	79.5	55.6	54.1
18/06	60.2	63.5	62.3	56.0	50.8	68.2	60.1	76.8	56.3	59.0
18/07	58.1	60.2	58.5	56.5	53.3	62.1	54.7	73.2	55.3	54.7
18/08	61.3	65.1	63.3	58.5	55.4	64.5	57.5	72.1	55.2	53.9
18/09	59.8	61.8	63.9	58.8	53.3	61.1	55.7	66.9	56.0	54.5
18/10	57.7	57.4	59.9	56.8	50.7	63.8	55.8	71.6	52.2	54.3

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

18年10月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、57.7と前月比2.1%ポイント低下し市場予想コンセンサスの59.0(筆者予想59.5)を下回った。米国の鉄鋼・アルミニウムへの関税賦課、それに伴う各国の対抗措置、米中貿易戦争、人手不足などの悪影響を受けるなかで、9、10月と2カ月連続で大型ハリケーンの襲来など悪天候に見舞われた。特に10月は米国本土に上陸したハリケーンで史上3番目に強いハリケーン“マイケル”が襲来した。それでも、総合指数など高い水準を維持していることから、米国内需要の堅調さ、世界需要の拡大等を背景に、米国製造業部門は好調さを維持していると判断される。

また、企業からの報告内容をもみても、引き続き米国の鉄鋼・アルミニウムへの関税賦課、米中貿易戦争、人手不足などの悪影響・懸念が指摘されているが、急に悪影響などが顕在化したというより、継続して圧力となっている。ただし、今回前月対比では悪化を示した“一次金属”はフル稼働を続けていると報告したほか、“加工金属”は現在の受注と出荷が強いと指摘するなど、需要が強いことが示されている。

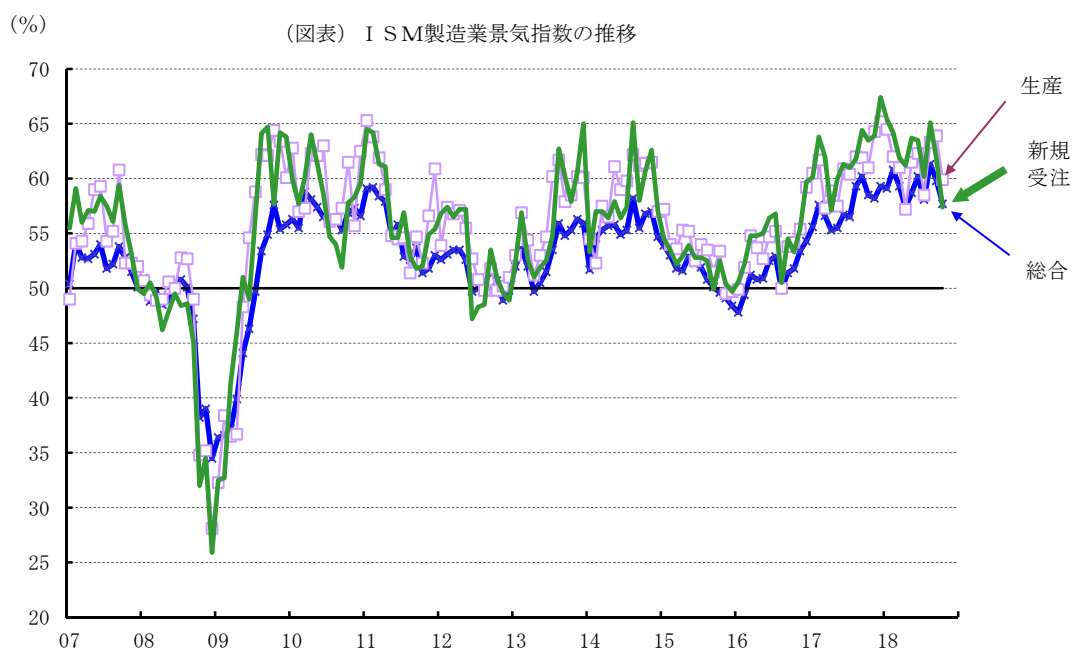
総合指数を構成する項目では、入荷遅延が上昇した一方、新規受注、生産、雇用、在庫が低下した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、入荷遅延(前月比+0.54%p)が押し上げ寄与となった一方、新規受注(前月比▲0.88%p)、生産(前月比▲0.80%p)、在庫(前月比▲0.52%p)、雇用(前月比▲0.40%p)が押し下げ寄与となった。

人手不足、悪天候、貿易戦争等で入荷遅延が高水準で推移しているものの、重要項目である新規受注や生産が内外需の堅調さを映じて高い水準で推移していることから、製造業部門は当面良好な状態を維持すると判断される。

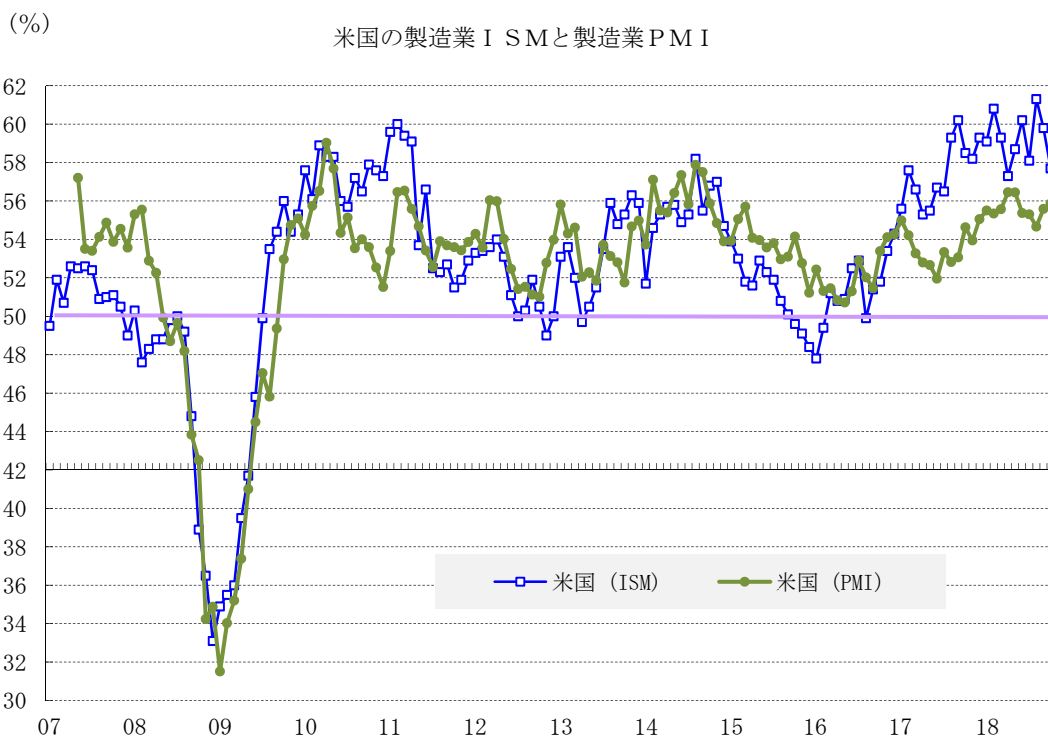
一方、インフレ面では、ドル高によるインフレ抑制効果がでているものの、新規受注や生産の高い水準での拡大傾向、入荷遅延や輸入制限導入などを受けた商品価格の上昇によって、仕入価格が高い水準にとどまっており、川上でのインフレ圧力は強いままである。

総合（全 18 業種、下線は拡大・縮小が 2 カ月以上続いたことを示す）で拡大した業種は、繊維、電気設備・部品、アパレル、プラスチック・ゴム、食品・飲料・タバコ、コンピューター・電子機器、家具・同関連、その他製造業、一般機械、輸送機器、印刷・関連サポート活動、化学製品、紙製品の 13 業種と前月の 15 業種から減少したが、依然多くの業種で拡大しており、製造業は広がりを持った拡大を続けている。縮小した業種は、木材製品、一次金属、非鉄、加工金属の 4 業種と前月の 1 業種から増加したが、一次金属、加工金属などは需要が強いと報告しており、急激な悪化を示すものではない。石油・石炭は変わらず。

今後、貿易戦争の継続、人手不足の一段の強まり等によるコストの上昇、EU や日本との通商交渉の不透明感、中国経済の構造変化に伴う中期的な成長鈍化など、需要の伸びを抑制する要因が残存すると予想される。このようなもとで、雇用・所得・保有資産残高の増加等による個人消費の拡大が見込まれる。また、コスト削減などのための効率化投資のほか、米国での生産能力拡大投資などを背景に、設備投資が堅調な拡大ペースを取り戻すと予想される。さらに、海外需要は拡大モメンタムのピークアウトも先進国での緩やかな金融環境や改善の続く内需に支えられ拡大基調を維持する公算が大きい。これらを勘案すると、米景気は好調さを維持するとみられる。このため、ISM 製造業景気指数は、米景気の堅調さを示す比較的高い水準で当面推移すると予想される。



(出所) ISM データより作成



(出所) ISM、IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

